

やくばしょくいん      しばたまち      しょう      ちゅうがくせい      みな  
役場職員から柴田町の小・中学生の皆さんへ  
しょうこうかんこうかちょう      おきだて      じゅんいち  
商工観光課長      沖館      淳一



商工観光課は、お店・工場への支援や観光イベントの開催などを行っています。春の「桜まつり」では、「放課後英語楽交」で学んだ小中学生の皆さんに外国人観光客への案内に一役買ってもらっていますが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、中止となったことを残念に思っています。

さて、全国ではウイルスによる感染症が、今もおさまっていません。このウイルスには、3つの「怖さ」があり、私たちも知らず知らずのうちに影響を受けています。

まず、1つ目の「怖さ」は、病気そのものです。ウイルスは、感染者との接触でうつります。感染すると風邪のような症状が出て、さらに重症化して肺炎を引き起こすことがあります。一人一人が衛生行動を徹底し、「手洗い」や「咳エチケット」、「人混みを避ける」など、ウイルスに立ち向かうための行動を自分のためだけでなく、家族や友達など周りの大切な人のためにも行う必要があります。

次に、2つ目の「怖さ」は、不安や恐れです。ウイルスは、目に見えません。ワクチンや治療薬も、まだ開発されていません。そのため、私たちは強い不安や恐れを感じてしまいます。不安や恐れは、私たちの心の中で大きくふくらみ、あっという間に人から人へ伝染してしまいます。まずは、自分を見つめてみましょう。立ち止まって一息入れたり、心地よい環境を整えたり、今の状況だからこそ出来る事に取り組んでみたりすることも良いでしょう。

そして、3つ目の「怖さ」は、偏見や差別です。ウイルスに感染した人や病院で働く人など、感染症にかかわる人を日常生活から遠ざけ、差別することは、人と人との信頼関係や地域のつながりをこわしてしまいます。「確かな情報」を広め、差別的な言動に同調しないようにしましょう。

では、なぜ偏見や差別が生まれるのでしょうか。見えない敵であるウイルスへの不安があります。特定の対象を見える敵とみなしてしまう（敵がすり替わってしまう）ことがあります。そして偏見や差別を行い、遠ざけることで、つかの間の安心感が得られる（本当の敵を見なくなる）からです。

皆さんも、テレビや新聞などから、ウイルスに関する悪い情報ばかりが目に入ってきたり、何かとウイルスに結びつけて考えたりしていませんか？

例えば、「●●ナンバーの車は危険」とか、「▲▲から来た人だ、危ない」とか、「咳をしている人は、コロナかも」とか、「■■病院は、危ないらしい」とか。特定の人や地域、職業などに対して「危険」、「うつる」、「離れる」といった偏見や差別などが起こっています。そして、もし自分が感染したら、「熱があるけど偏見や差別が怖いから黙っていよう…」という気持ちが生まれます。こんな思いや行動により、感染症は広がっています。

この感染症の怖さは、病気が不安を呼び、不安が偏見や差別を生み、偏見や差別が更なる病気の拡散につながることで、

このウイルスとの戦いは、長期戦になると思います。学校が休みで友達と会えず、寂しい思いをしている児童生徒の皆さんやまわりの大人たちも、一生懸命に手強いウイルスと戦っています。必ず以前と同じように、楽しく勉強や友達と遊べる毎日が戻ってくることを信じて、負の連鎖を断ち切りましょう！

じかい      ふじわら      まさし      せいさくかちょう  
次回は、藤原 政志 まちづくり政策課長です。